



下田市総合教育会議報告書 説明資料

平成28年10月 下田市教育委員会学校教育課

これまでの経過について

1 平成26年度以前

年月	事柄	主な内容
H19.12	下田市立小・中学校再編整備について (答申) (下田市立学校等再編整備審議会 下田市教育委員会)	<ul style="list-style-type: none">・単学級編成の学校において少人数による支障が教育活動に生じてくる場合は、市内4中学校体制を検討し新たな中学校体制を構築する。・平成22年4月1日に稲梓中学校と稲生沢中学校を統合し、稲生沢中学校校舎に新中学校を創設する。
H21.5	教育委員会で統合先送りの結論 (5月定例会)	<ul style="list-style-type: none">・稲梓中学校と稲生沢中学校の統合は、当面先送りする。ただし、保護者・地域からの要望によっては統合に向け前向きに取り組んでいく。 当時の保護者や地域住民の方の十分な同意を得ることができなかったため。
H26.12	学校再編整備について(諮問) (下田市教育委員会 下田市立学校等再編整備審議会)	<ul style="list-style-type: none">・少子化の流れが更に加速し、教育環境を取り巻く状況は変化を続けており、今後の児童生徒数の動向を見据えつつ、平成19年当時の答申を踏まえ、学校教育環境のあり方について、意見を求める。
H27.3	学校再編整備について(答申) (下田市立学校等再編整備審議会 下田市教育委員会)	<ul style="list-style-type: none">・市内中学校は、近い将来、少人数による教育課題が生じる可能性。将来的には中学校は一つということも、視野に入れて再編を考えていくべきと思われる。・現状では、中学校の再編による課題を一つずつ認識し、その第一段階として、稲梓中学校と稲生沢中学校を統合し、現在の稲生沢中学校校舎に新たな中学校を構築すべきである。・下田東中学校が単学級となった場合、下田中学校との統合を推進。更には、将来は下田市に中学校は一つということも視野に入れ、中学校再編を考えていく。

これまでの経過について

2 平成27年度以降

年月	事柄	主な内容
H27.4	第1回下田市総合教育会議	<ul style="list-style-type: none">・地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正について・下田市総合教育会議設置要綱について・(仮称)下田市教育大綱について
H27.6	学校等再編整備審議会答申に関する説明会	<ul style="list-style-type: none">・4中学校区ごと開催 小中PTA役員対象 97人参加
H27.10	第2回下田市総合教育会議	<ul style="list-style-type: none">・下田市教育大綱(案)について・新給食センターについて・学校再編について
H27.12	第3回下田市総合教育会議	<ul style="list-style-type: none">・下田市教育大綱(案)について・学校再編について
H28.1	学校再編アンケート実施	<ul style="list-style-type: none">・市内小中学校のすべての保護者及び教職員を対象回答数：1,131(保護者984・教職員147)保護者回答率67%
H28.2	第4回下田市総合教育会議	<ul style="list-style-type: none">・学校再編について
H28.4	第1回下田市総合教育会議	<ul style="list-style-type: none">・学校再編アンケートの分析結果について・学校等再編方針検討会の設置及び今後のスケジュールについて・庁内プロジェクトチームの設置について
H28.5 H28.7	下田市総合教育会議懇談会	<ul style="list-style-type: none">・報告書内容の事前協議
H28.8	第2回下田市総合教育会議	<ul style="list-style-type: none">・報告書について・スケジュールについて

報告書策定の経緯

平成27年3月26日 下田市立学校等再編整備審議会 答申内容（一部）

- ・ 稲梓中と稲生沢中との統合
- ・ 下田東中が単学級となった場合の下田中との統合
- ・ 将来において、下田市に中学校は一つということも視野に入れた中学校再編を考えていく



下田市総合教育会議（構成員：市長、教育長、教育委員）

- ・ 二つの中学校に統合した数年後に再び一つに統合することへの懸念
- ・ 少子化が進行している中、4校を一度に統合するという方法も考えることができるのではないか。



中学校の規模に関わる諸課題や学校再編アンケートの検証、下田市立4中学校の生徒数推移及び現状などを踏まえ、協議、検討し、報告書を取りまとめ

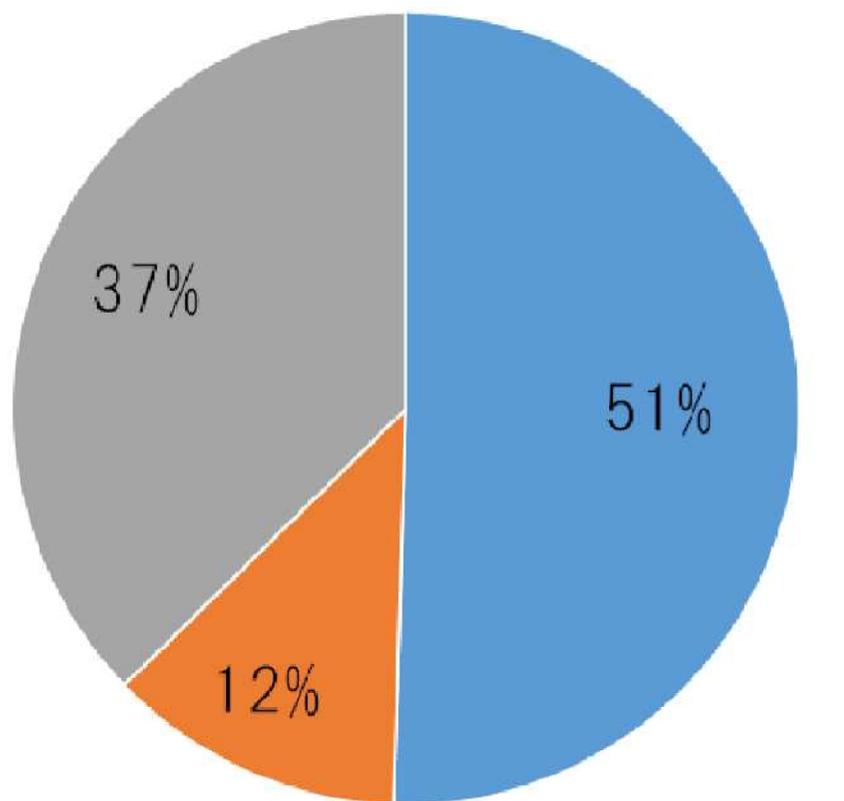
学校再編アンケート結果について

- 1 調査の目的 中学校統合に関する保護者及び教職員の意向把握を目的として、アンケート調査を実施しました。
- 2 調査実施年月 平成28年 1 月
- 3 調査方法 調査対象校は市内全小中学校(7 小学校及び 4 中学校)とし、調査の対象はすべての保護者及び教職員としました。なお、調査票は各小中学校経由による配布・回収により行いました。
- 4 回収状況 本調査の回収数、回収率は以下のとおりです。

区分	配布数	回収数	回収率
保護者	1,456	984	67%
教職員	—	147	—

学校再編アンケート結果について

設問1 「市内4中学校の再編についてどのようにお考えですか。」に対する考察（保護者）



■ 賛成 ■ 反対 ■ どちらとも言えない

区分	人数
賛成	497人
反対	120人
どちらとも言えない	367人
1,456人中 984人回答 回収率 67%	

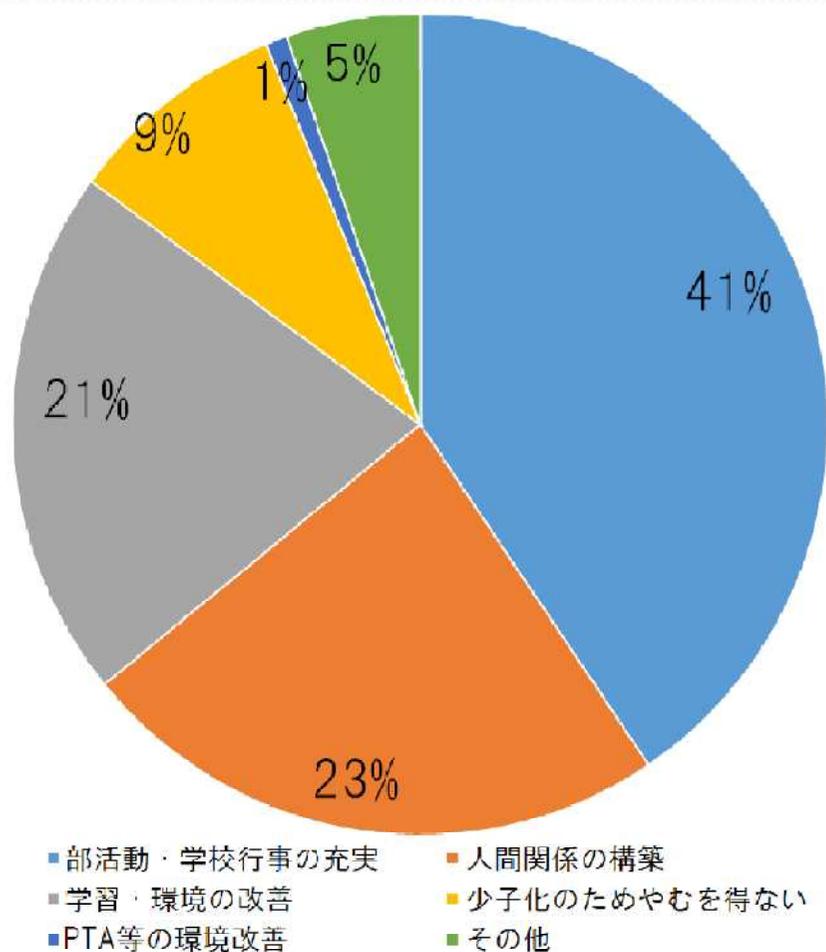
学校再編アンケート結果について

保護者学校別回答状況（カッコ内は人数）

学校名	回収率	賛成	反対	どちらとも言えない
稲梓小学校	69% (65/93)	51% (33)	17% (11)	32% (21)
稲生沢小学校	72% (134/186)	63% (84)	14% (19)	23% (31)
白浜小学校	54% (46/85)	28% (13)	24% (11)	48% (22)
浜崎小学校	54% (57/104)	35% (20)	21% (12)	44% (25)
下田小学校	67% (171/255)	47% (80)	9% (16)	44% (75)
大賀茂小学校	68% (46/67)	48% (22)	11% (5)	41% (19)
朝日小学校	55% (65/117)	52% (34)	9% (6)	39% (25)
小学校 計	64% (584/907)	49% (286)	14% (80)	37% (218)
稲梓中学校	94% (49/52)	59% (29)	12% (6)	29% (14)
稲生沢中学校	83% (108/130)	62% (67)	9% (10)	29% (31)
下田東中学校	68% (82/120)	43% (35)	11% (9)	46% (38)
下田中学校	65% (161/247)	50% (80)	9% (15)	41% (66)
中学校 計	72% (400/549)	53% (211)	10% (40)	37% (149)
合 計	67% (984/1,456)	51% (497)	12% (120)	37% (367)

学校再編アンケート結果について

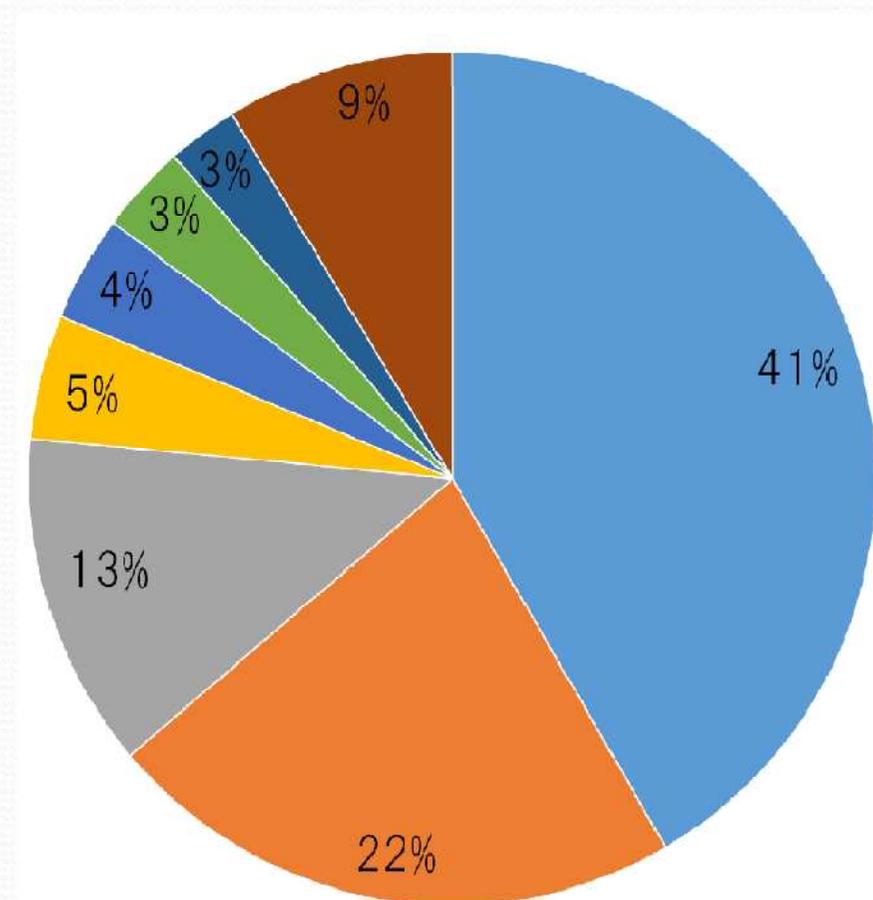
「賛成」保護者理由欄意見について



「賛成」意見区分	件数
部活動・学校行事の充実	236件
人間関係の構築	137件
学習・環境の改善	122件
少子化のためやむを得ない	51件
PTA等の環境改善	5件
その他	31件
「賛成」理由欄意見数	582件

学校再編アンケート結果について

「反対」保護者理由欄意見について

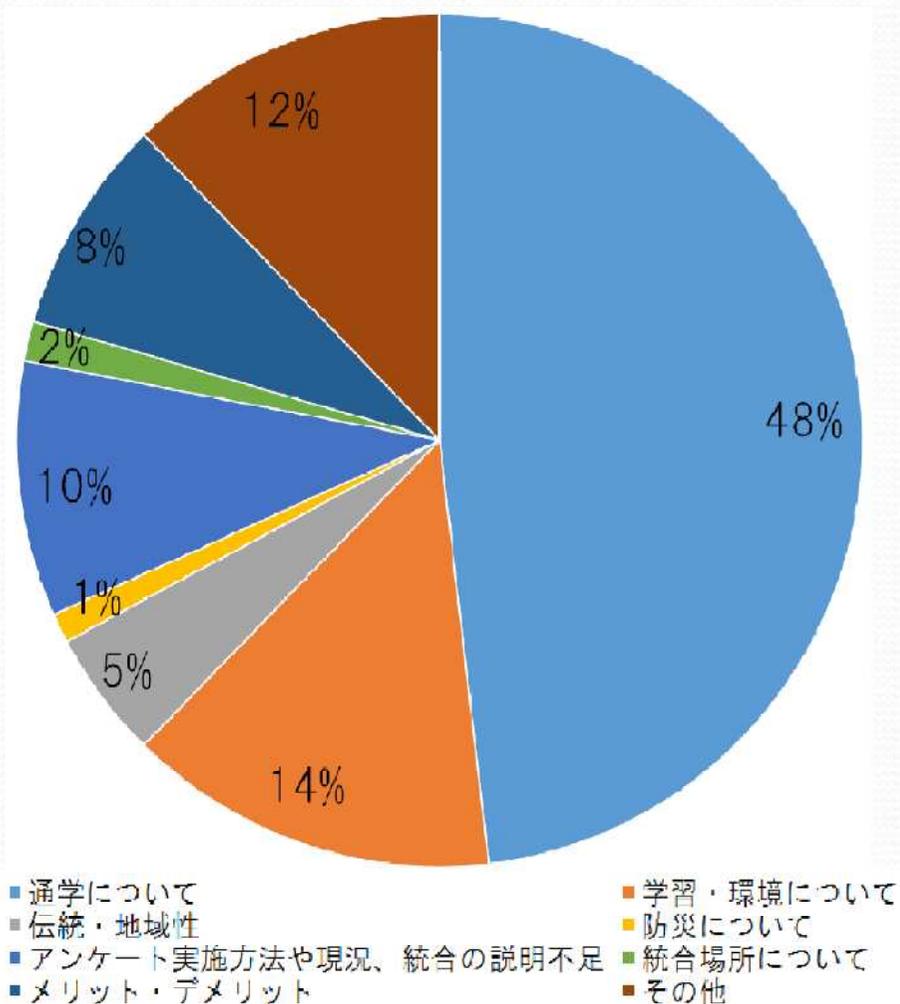


- 通学について
- 学習・環境の変化
- 伝統・地域性
- アンケート実施方法や現況、統合の説明不足
- 過疎化
- 防災について
- 子どもを考慮していない
- その他

「反対」意見区分	件数
通学について	62件
学習・環境の変化	33件
伝統・地域性	19件
アンケート実施方法や現況・統合の説明不足	7件
過疎化	6件
防災について	5件
子どものことを考えていない	4件
その他	13件
「反対」理由欄意見数 149件	

学校再編アンケート結果について

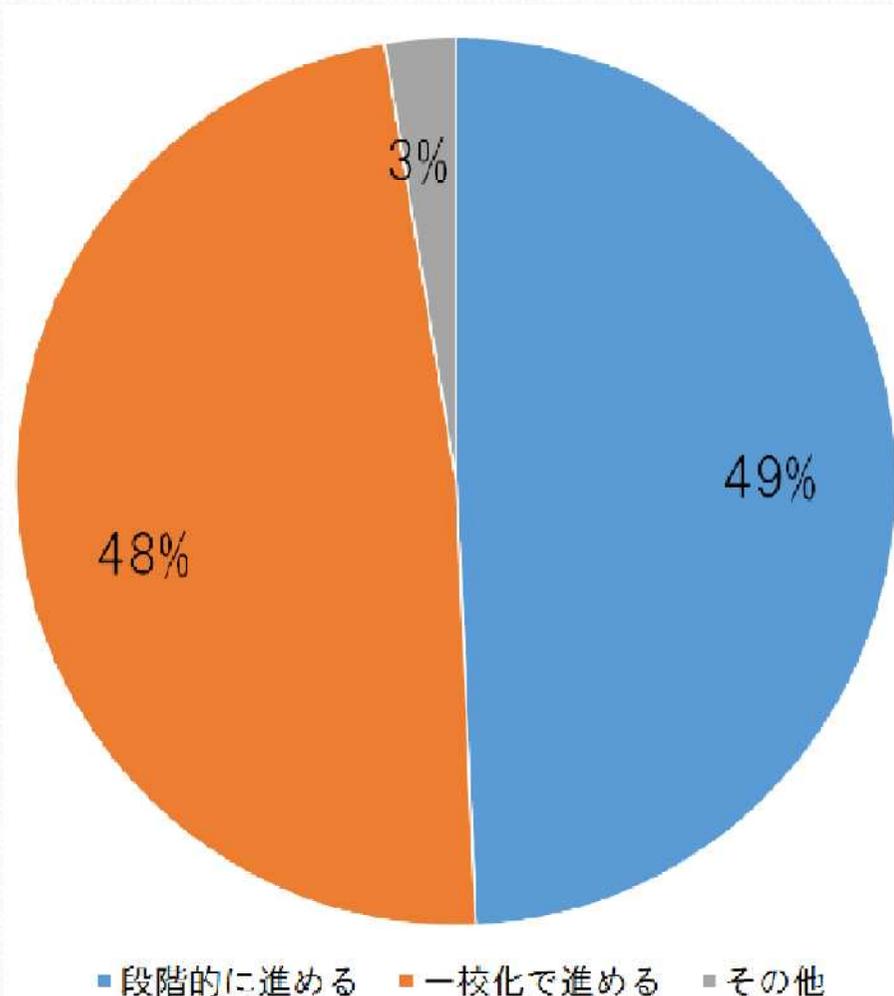
「どちらとも言えない」保護者理由欄意見について



「どちらとも言えない」意見区分	件数
通学について	129件
学習環境について	38件
伝統・地域性	13件
防災について	3件
アンケート実施方法や現況・統合の説明不足	26件
統合場所について	4件
メリット・デメリット	22件
その他	33件
「どちらとも言えない」理由欄意見数	268件

学校再編アンケート結果について

設問2 「賛成と回答した方に、再編の進め方について伺います。」に対する考察（保護者）



区分	人数
段階的に進める	245人
一校化で進める	239人
その他	13人
保護者賛成回答数	497人

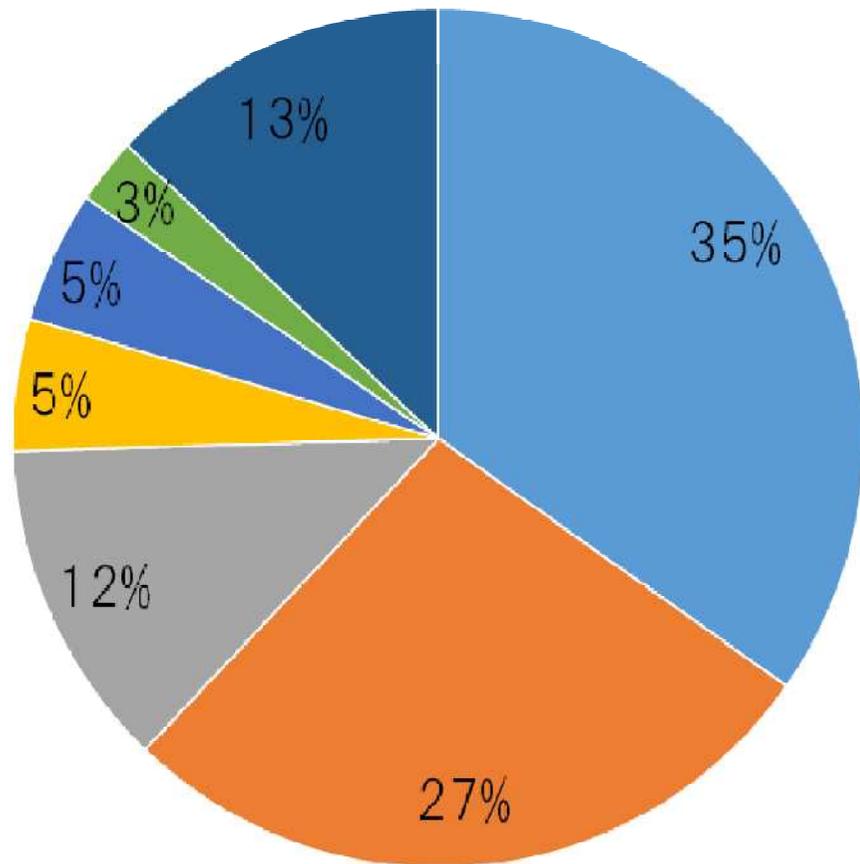
学校再編アンケート結果について

保護者学校別回答状況（カッコ内は人数）

学校名	賛成回答数	段階的	一校化	その他
稲梓小学校	33	42% (14)	49% (16)	9% (3)
稲生沢小学校	84	52% (44)	47% (39)	1% (1)
白浜小学校	13	38% (5)	54% (7)	8% (1)
浜崎小学校	20	35% (7)	65% (13)	0% (0)
下田小学校	80	55% (44)	45% (36)	0% (0)
大賀茂小学校	22	50% (11)	50% (11)	0% (0)
朝日小学校	34	47% (16)	44% (15)	9% (3)
小学校 計	286	49% (141)	48% (137)	3% (8)
稲梓中学校	29	41% (12)	59% (17)	0% (0)
稲生沢中学校	67	55% (37)	45% (30)	0% (0)
下田東中学校	35	43% (15)	54% (19)	3% (1)
下田中学校	80	50% (40)	45% (36)	5% (4)
中学校 計	211	49% (104)	48% (102)	3% (5)
合 計	497	49% (245)	48% (239)	3% (13)

学校再編アンケート結果について

「段階的に進める」保護者意見について

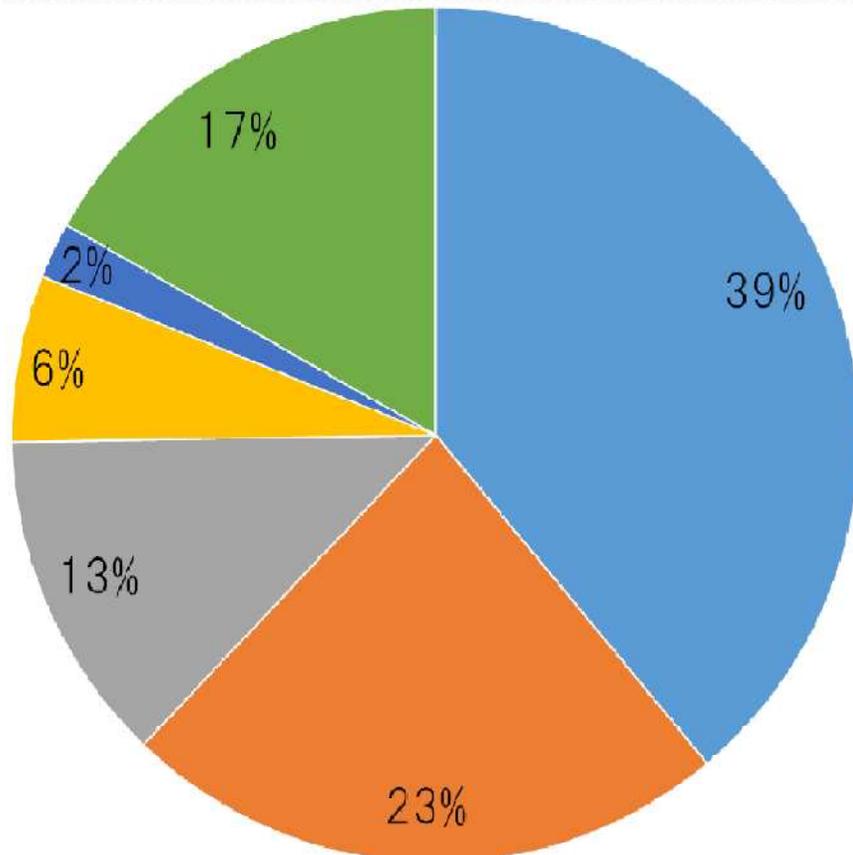


- 理解が得やすい
- 子どもの負担軽減
- 市内に2校必要
- その他
- 通学問題
- 多人数による教育の不安
- 既存施設の利用

「段階的に進める」意見区分	件数
理解が得やすい	56件
通学問題	44件
子どもの負担軽減	20件
多人数による教育の不安	8件
市内に2校必要	8件
既存施設の利用	4件
その他	21件
「段階的に進める」保護者意見数	161件

学校再編アンケート結果について

「一校化で進める」保護者意見について

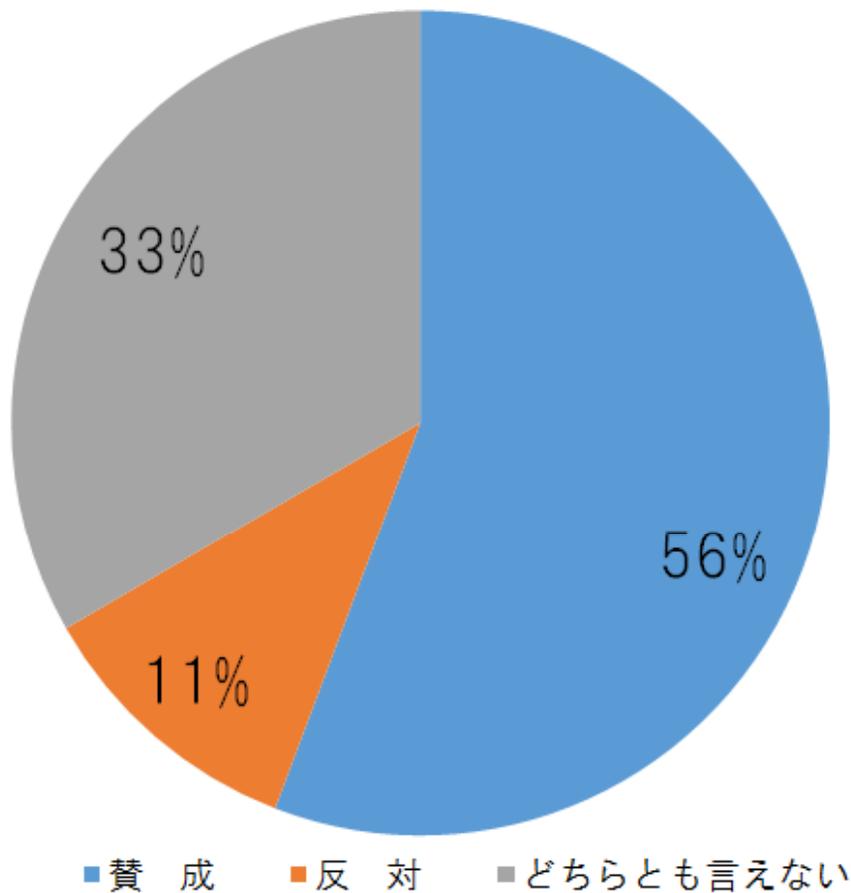


- 最終的に一校化ならば早期に実施すべき
- 市の財政的負担軽減
- 家庭の費用負担軽減
- 段階的統合だと単学級が発生
- 少子化のためやむを得ない
- その他

「一校化で進める」意見区分	件数
最終的に一校化ならば早期に実施すべき	74件
市の財政的負担軽減	44件
家庭の費用負担軽減	24件
段階的統合だと単学級が発生	12件
少子化のため、やむを得ない	4件
その他	32件
「一校化で進める」保護者意見数	190件

学校再編アンケート結果について

設問1 「市内4中学校の再編についてどのようにお考えですか。」に対する考察（教職員）



区分	人数
賛成	82人
反対	16人
どちらとも言えない	49人

教職員147人回答

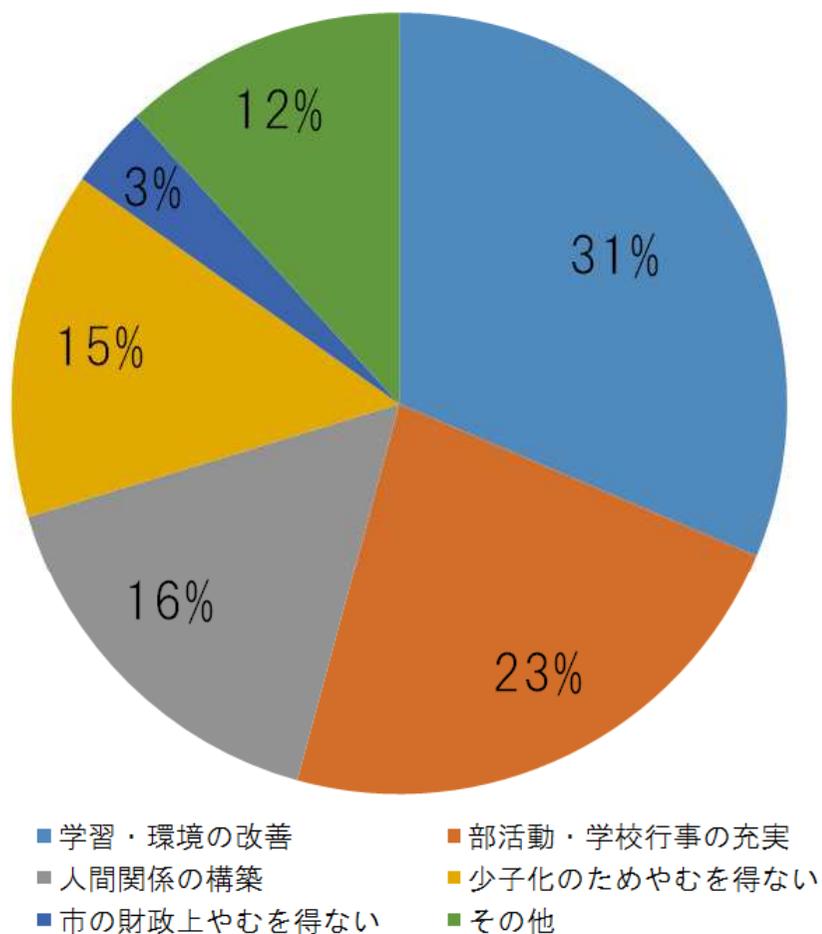
学校再編アンケート結果について

教職員学校別回答状況（カッコ内は人数）

学校名	回答数	賛成	反対	どちらとも言えない
稲梓小学校	11	73%（8）	9%（1）	18%（2）
稲生沢小学校	13	38%（5）	16%（2）	46%（6）
白浜小学校	11	27%（3）	18%（2）	55%（6）
浜崎小学校	13	46%（6）	31%（4）	23%（3）
下田小学校	20	40%（8）	20%（4）	40%（8）
大賀茂小学校	12	75%（9）	0%（0）	25%（3）
朝日小学校	11	82%（9）	0%（0）	18%（2）
小学校 計	91	53%（48）	14%（13）	33%（30）
稲梓中学校	11	36%（4）	19%（2）	45%（5）
稲生沢中学校	12	58%（7）	0%（0）	42%（5）
下田東中学校	13	54%（7）	8%（1）	38%（5）
下田中学校	20	80%（16）	0%（0）	20%（4）
中学校 計	56	61%（34）	5%（3）	34%（19）
合 計	147	56%（82）	11%（16）	33%（49）

学校再編アンケート結果について

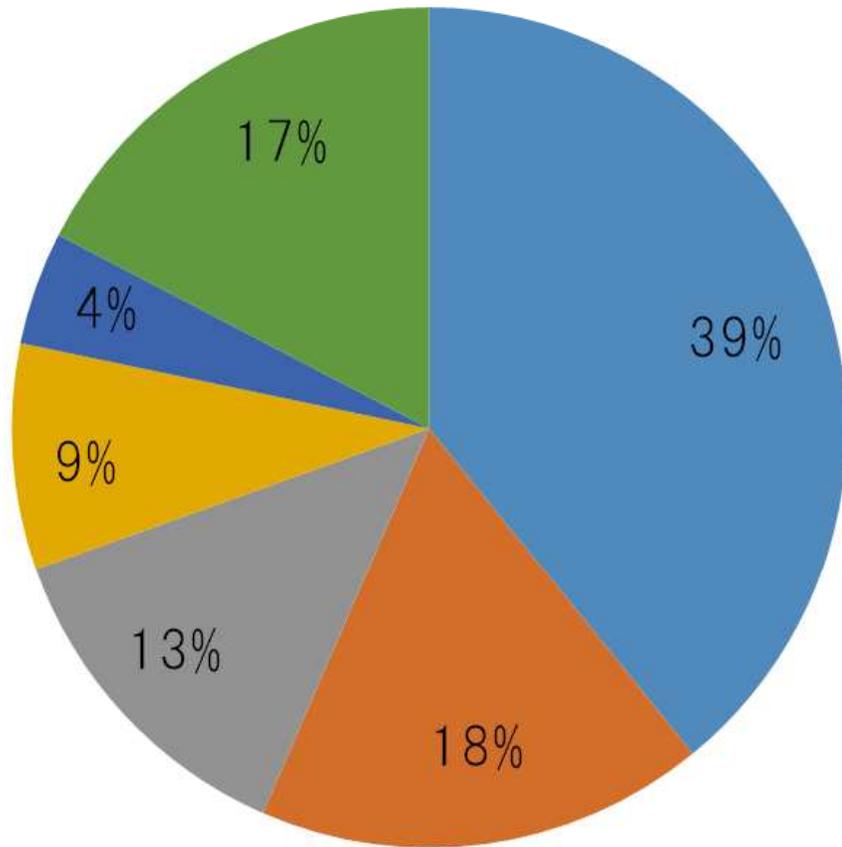
「賛成」教職員理由欄意見について



「賛成」意見区分	件数
学習・環境の改善	37件
部活動・学校行事の充実	27件
人間関係の構築	19件
少子化のためやむを得ない	17件
市の財政上やむを得ない	4件
その他	14件
「賛成」理由欄意見数 118件	

学校再編アンケート結果について

「反対」教職員理由欄意見について

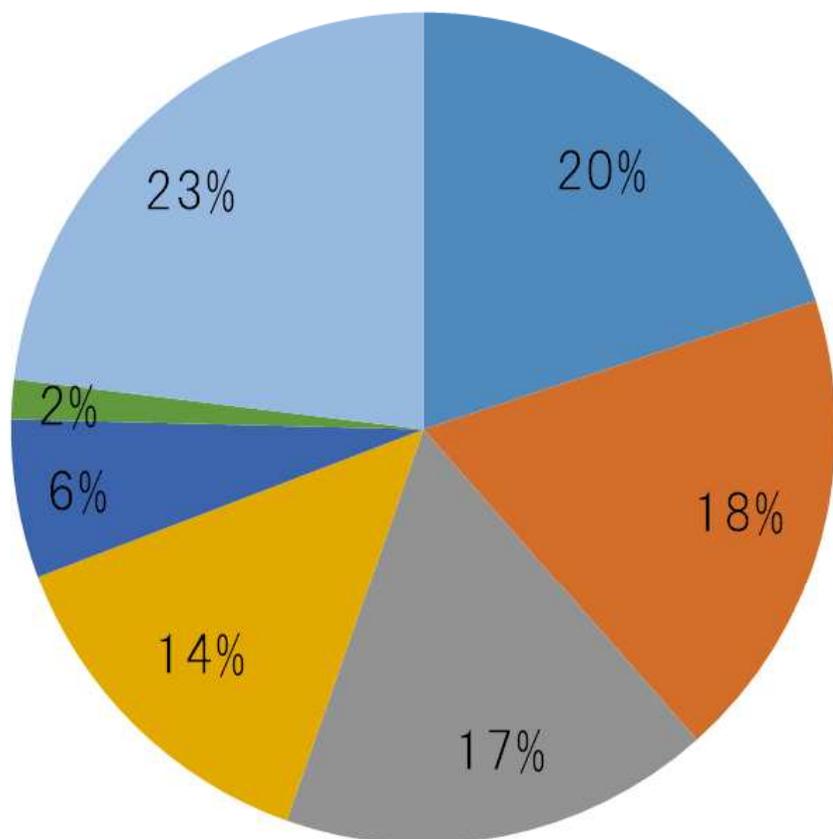


- 伝統・地域性
- 小規模校の良さ
- 通学について
- アンケート実施方法や現況、統合の説明不足
- 過疎化
- その他

「反対」意見区分	件数
伝統・地域性	9件
小規模校の良さ	4件
通学について	3件
アンケート実施方法や現況・統合の説明不足	2件
過疎化	1件
その他	4件
「反対」理由欄意見数 23件	

学校再編アンケート結果について

「どちらとも言えない」教職員理由欄意見について

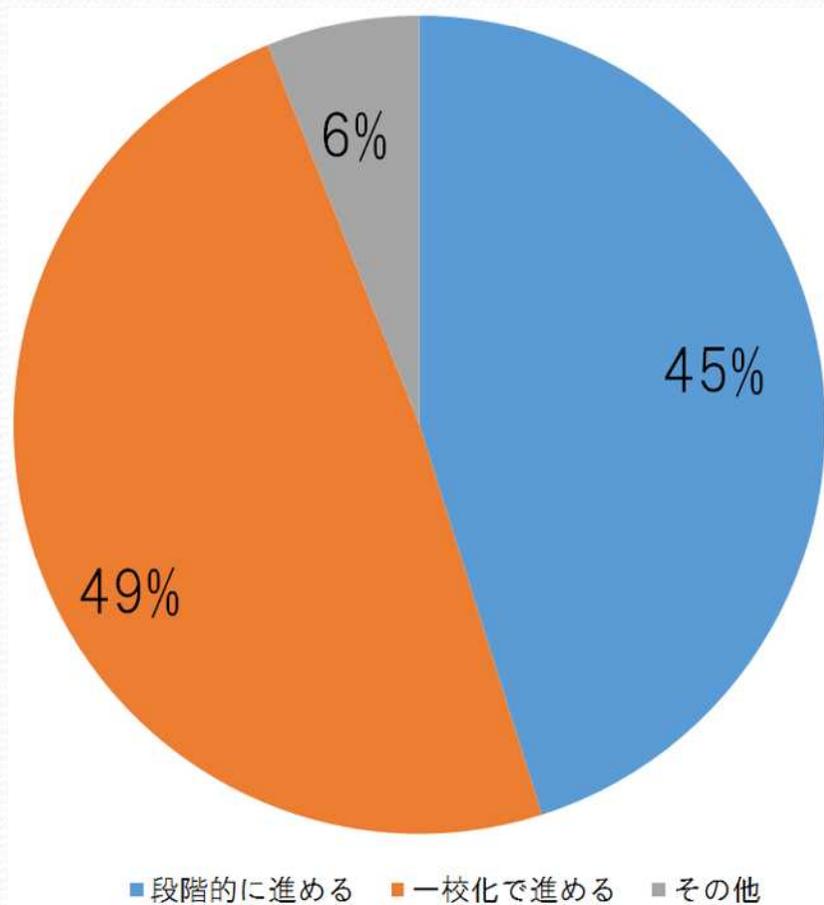


- 通学について
- メリット・デメリット
- 伝統・地域性
- 学習・環境について
- アンケート実施方法や現況、統合の説明不足
- 統合場所について
- その他

「どちらとも言えない」意見区分	件数
通学について	13件
メリット・デメリット	12件
伝統・地域性	11件
学習・環境について	9件
アンケート実施方法や現況・統合の説明不足	4件
統合場所について	1件
その他	15件
「どちらとも言えない」理由欄意見数	65件

学校再編アンケート結果について

設問2 「賛成と回答した方に、再編の進め方について伺います。」に対する考察（教職員）



区分	人数
段階的に進める	37人
一校化で進める	40人
その他	5人
賛成回答数	82人

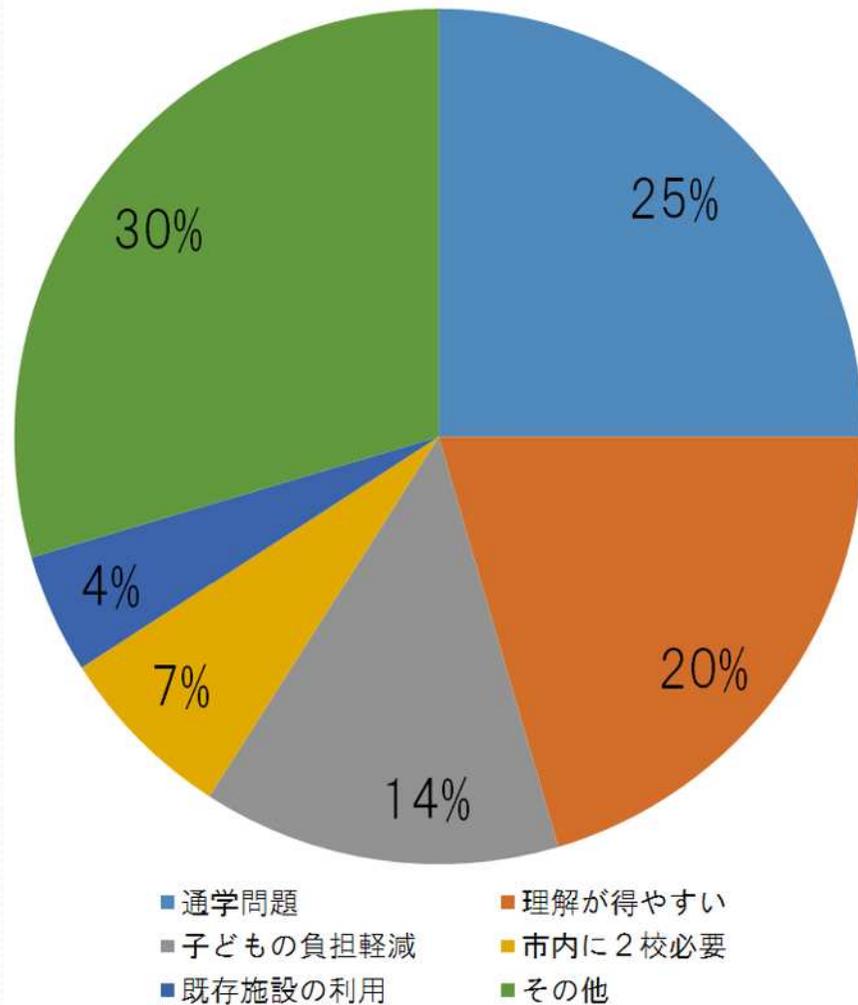
学校再編アンケート結果について

教職員学校別回答状況（カッコ内は人数）

学校名	賛成回答数	段階的	一校化	その他
稲梓小学校	8	50%（4）	38%（3）	12%（1）
稲生沢小学校	5	80%（4）	20%（1）	0%（0）
白浜小学校	3	67%（2）	33%（1）	0%（0）
浜崎小学校	6	0%（0）	100%（6）	0%（0）
下田小学校	8	50%（4）	50%（4）	0%（0）
大賀茂小学校	9	33%（3）	56%（5）	11%（1）
朝日小学校	9	33%（3）	56%（5）	11%（1）
小学校 計	48	42%（20）	52%（25）	6%（3）
稲梓中学校	4	50%（2）	25%（1）	25%（1）
稲生沢中学校	7	29%（2）	71%（5）	0%（0）
下田東中学校	7	57%（4）	29%（2）	14%（1）
下田中学校	16	56%（9）	44%（7）	0%（0）
中学校 計	34	50%（17）	44%（15）	6%（2）
合 計	82	45%（37）	49%（40）	6%（5）

学校再編アンケート結果について

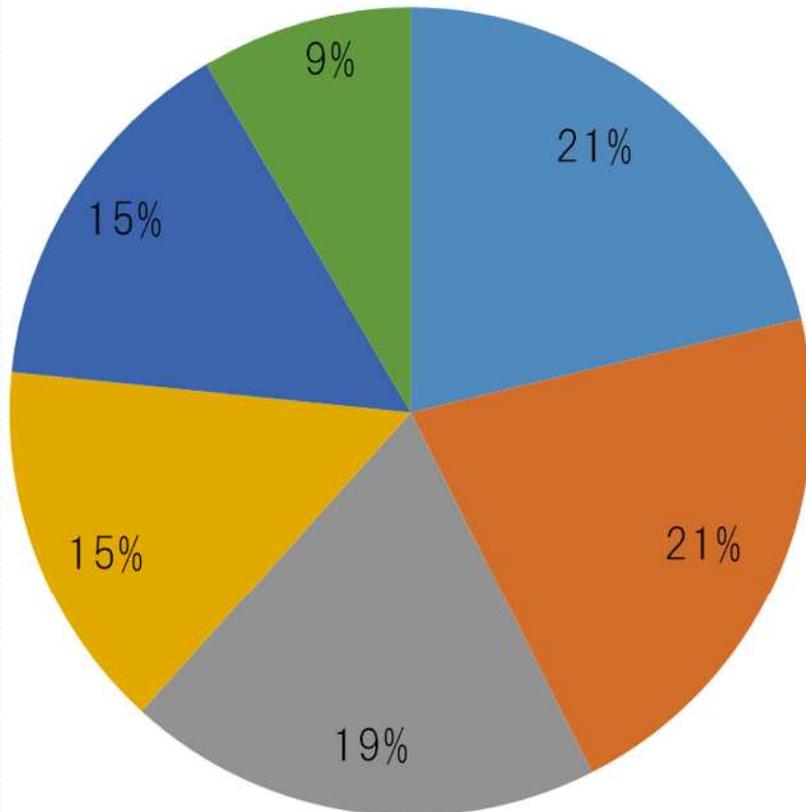
「段階的に進める」教職員意見について



「段階的に進める」意見区分	件数
通学問題	11件
理解が得やすい	9件
子どもの負担軽減	6件
市内に2校必要	3件
既存施設の利用	2件
その他	13件
「段階的に進める」教職員意見数	44件

学校再編アンケート結果について

「一校化を進める」教職員意見について

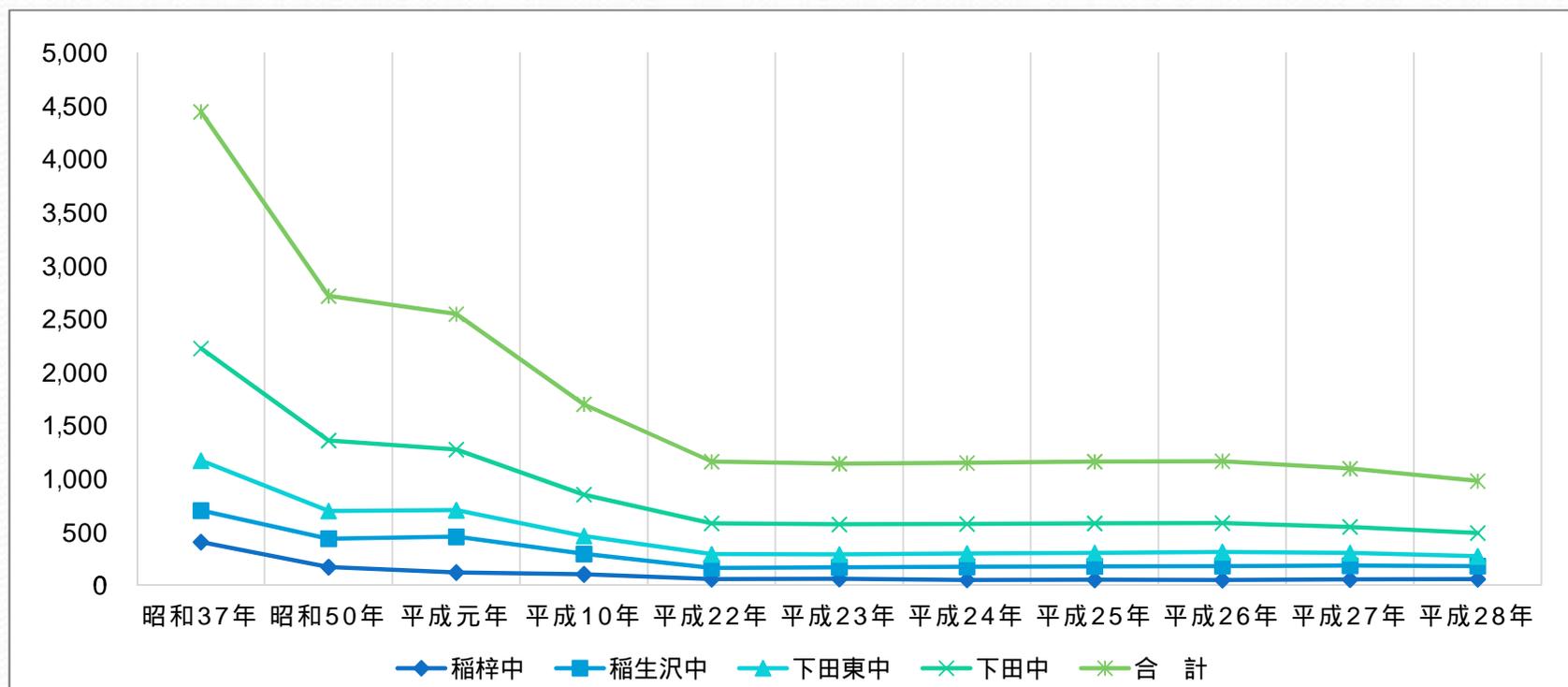


- 最終的に一校化ならば早期に実施すべき
- 複数回の統合による混乱を避けるため
- 段階的統合だと単学級が発生
- 市の財政的負担軽減
- 新規に一校とした方が受け入れられる
- その他

「一校化を進める」意見区分	件数
最終的に一校化ならば早期に実施すべき	10件
複数回の統合による混乱を避けるため	10件
段階的統合だと単学級が発生	9件
市の財政的負担軽減	7件
新規に一校とした方が受け入れられる	7件
その他	4件
「一校化を進める」教職員意見数	47件

下田市立4中学校生徒数推移と現状

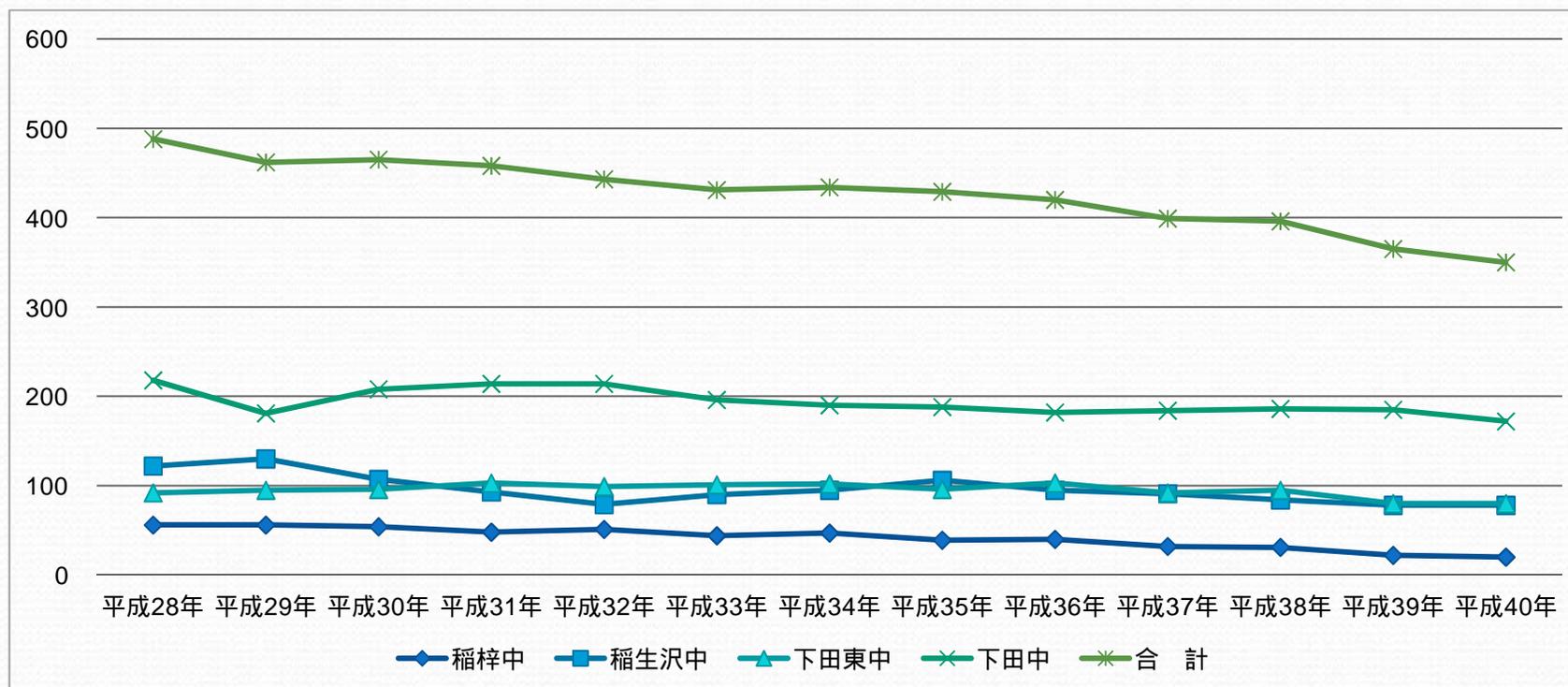
1 これまでの生徒数推移



学校名	S 37年	S 50年	H 1年	H 10年	H 22年	H 23年	H 24年	H 25年	H 26年	H 27年	H 28年
稲梓中	403	169	118	101	55	58	48	49	47	52	56
稲生沢中	296	266	335	191	104	108	124	126	131	130	122
下田東中	468	261	249	169	130	122	123	128	132	120	92
下田中	1,053	660	569	387	290	281	278	276	271	244	218
合 計	2,220	1,356	1,271	848	579	569	573	579	581	546	488

下田市立4中学校生徒数推移と現状

2 これからの生徒数推移



学校名	H28年	H29年	H30年	H31年	H32年	H33年	H34年	H35年	H36年	H37年	H38年	H39年	H40年
稲椋中	56	56	54	48	51	44	47	39	40	32	31	22	20
稲生沢中	122	130	107	93	79	90	95	106	95	91	84	78	78
下田東中	92	95	96	103	99	101	102	96	103	92	95	80	80
下田中	218	181	208	214	214	196	190	188	182	184	186	185	172
合計	488	462	465	458	443	431	434	429	420	399	396	395	350

下田市立4中学校生徒数推移と現状

3 4中学校別想定クラス数(40人学級想定)

年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
想定生徒数	(462)	(465)	(458)	(443)	(431)	(434)
40人学級想定クラス数	17	17	17	16	15	15
想定クラス数(40人学級想定)						
	クラス数 1年 2年 3年					
稲基中学校	3 (14 19 23)	3 (21 14 19)	3 (13 21 14)	3 (17 13 21)	3 (14 17 13)	3 (16 14 17)
稲生沢中学校	5 (41 38 51)	4 (28 41 38)	4 (24 28 41)	3 (27 24 28)	3 (39 27 24)	3 (29 39 27)
下田東中学校	3 (38 28 29)	3 (30 38 28)	3 (35 30 38)	3 (34 35 30)	3 (32 34 35)	3 (36 32 34)
下田中学校	6 (61 62 58)	7 (85 61 62)	7 (68 85 61)	7 (61 68 85)	6 (67 61 68)	6 (62 67 61)
年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度	平成39年度	平成40年度
想定生徒数	(429)	(420)	(399)	(396)	(365)	(350)
40人学級想定クラス数	15	15	15	15	15	15
想定クラス数(40人学級想定)						
	クラス数 1年 2年 3年					
稲基中学校	3 (9 16 14)	3 (15 9 16)	3 (8 15 9)	3 (8 8 15)	3 (6 8 8)	3 (6 6 8)
稲生沢中学校	3 (38 29 39)	3 (28 38 29)	3 (25 28 38)	3 (31 25 28)	3 (22 31 25)	3 (25 22 31)
下田東中学校	3 (28 36 32)	3 (39 28 36)	3 (25 39 28)	3 (31 25 39)	3 (24 31 25)	3 (25 24 31)
下田中学校	6 (59 62 67)	6 (61 59 62)	6 (64 61 59)	6 (61 64 61)	6 (60 61 64)	6 (51 60 61)

下田市立4中学校生徒数推移と現状

4 平成33年度以降1校化想定(40人学級想定)

年 度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
想定生徒数	(431)	(434)	(429)	(420)
40人学級 想定クラス数	12	12	12	12

	平成33年度				平成34年度				平成35年度				平成36年度			
	クラス数	1年	2年	3年												
稲梓中学校																
稲生沢中学校																
下田東中学校	12 (152 139 140)				12 (143 152 139)				12 (134 143 152)				12 (143 134 143)			
下田中学校																

年 度	平成37年度	平成38年度	平成39年度	平成40年度
想定生徒数	(399)	(396)	(365)	(350)
40人学級 想定クラス数	12	12	11	11

	平成37年度				平成38年度				平成39年度				平成40年度			
	クラス数	1年	2年	3年												
稲梓中学校																
稲生沢中学校																
下田東中学校	12 (122 143 134)				12 (131 122 143)				11 (112 131 122)				10 (107 112 131)			
下田中学校																

下田市立4中学校生徒数推移及び現状

5 学級・生徒数及び教職員数等の状況（平成27年度時点）

学校名	学級・生徒数	教職員数等
稲梓中学校	1年 1学級（男12・女8：計20） 2年 1学級（男13・女4：計17） 3年 1学級（男6・女9：計15） 合計52人 【学級数3 長頭諭9養1事1】	長1 頭1（英） 国1 社2 数1 理1 英1 音0 美0 体1 技0 家0 養1 事1 合計11人 *音・美は免外解消非常勤講師で対応 *技・家は免外申請で対応
稲生沢中学校	1年 2学級（男21・女25：計46） 2年 1学級（男22・女17：計39） 3年 2学級（男26・女19：計45） 合計130人 【学級数5 長頭諭10養1事1】	長1 頭1（技） 国1 社1 数1 理1 英2 音1 美0 体1 技0 家0 養1 事1 合計12人 *美・家は免外解消非常勤講師で対応 *技は教頭が対応
下田東中学校	1年 1学級（男14・女15：計29） 2年 1学級（男24・女15：計39） 3年 2学級（男25・女27：計52） 合計120人 【学級数4 長頭諭10養1事1】	長1 頭1（英） 国1 社1 数2 理1 英1 音1 美0 体2 技0 家0 養1 事1 *加配1（指導方法） 合計13人 *美・家は免外解消非常勤講師で対応 *技・家は免外申請で対応
下田中学校	1年 2学級（男34・女26：計60） 2年 3学級（男50・女42：計92） 3年 3学級（男32・女49：計88） 特支（知的）1（男2・女5：計7） 合計247人 【学級数8 長頭諭14+1（特支）養1事1】	長1 頭1（体） 国2 社1 数2 理2 英2 音1 美1 体2 技1 家0 養1 事2 *加配2（指導方法・共同実施） 合計19人 *技・家は免外申請で対応

下田市立4中学校生徒数推移及び現状

6 現状で1校に統合した場合（平成27年度時点）

学校名	学級・生徒数	教職員数等
新中学校	1年 5学級（男81・女74：計155） 2年 6学級（男109・女78：計187） 3年 6学級（男96・女104：計200） 特支（知的）1（男2・女5：計7） 合計549人 【学級数17 長頭諭27+1（特支）養1事1】	長1 頭1 国4 社3 数4 理4 英4 音2 美1 体4 技1 家1 養1 事2 *加配2（指導方法・共同実施）：仮 合計32人 職員22人減 （長頭養事：各3減、教諭：10減）

7 現状の部活動状況（平成27年度時点）

学校名	部活動数	部活動名
稲梓中学校	4	男子：テニス・卓球 女子：テニス・バレー（3年6人、2年0人、1年3人のため、28年度の存続は難しい。）
稲生沢中学校	6	男子：テニス、卓球、バスケット 女子：テニス、卓球、バレー
下田東中学校	7	男子：テニス、バレー、バスケット 女子：テニス、バレー、バスケット、卓球（28年度から廃部の方向）
下田中学校	13	男子：テニス、バレー、バスケット、卓球 女子：テニス、バレー、バスケット、卓球（28年度から休部の方向） 共通：剣道、吹奏楽、美術、サッカー（28年度から休部の方向）、 陸上（28年度から休部の方向）

中学校の規模について

1 法令等から見た中学校の規模について

(1) 学校教育法施行規則 (昭和22年5月23日文部省令第11号)

(学級数)

第41条 小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。

同条は、第79条で中学校に準用。

(2) 義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令

(昭和33年6月27日政令第189号)

(適正な学校規模の条件)

第4条 法第3条第1項第4号の適正な規模の条件は、次に掲げるものとする。

(1) 学級数が、小学校及び中学校にあってはおおむね12学級から18学級まで、義務教育学校にあってはおおむね18学級から27学級までであること。

中学校の規模について

(3) 学校規模の分類 (公立小・中学校の国庫負担事業認定申請の手引き)

規模区分	小学校	中学校
過小規模校	・ 5 学級以下	・ 2 学級以下
小規模校	・ 6 ~ 11 学級	・ 3 ~ 11 学級
適正規模校	・ 12 ~ 18 学級	
大規模校	・ 19 ~ 30 学級	
過大規模校	・ 31 学級	

複式校 (極小規模校)

- ・ 小学校 : 2 個学年合わせて 16 人以下の複式学級で構成される 3 学級以下の学校
- ・ 中学校 : 2 個学年合わせて 8 人以下の学級と他の学年を合わせて 2 学級以下の学校

(4) 新中学校の規模について

下田市立 4 中学校 1 校化の新中学校の規模は、平成 33 年度を初年度とした場合、40 人学級で **12 学級が想定** されており (1 学年の学級数で 4 学級)、法令等から判断すると適正規模校となります。

中学校の規模について

2 学校規模によるメリット・デメリット

(1) 小規模化のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 ・学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ・1学年1学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。 ・運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ・中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ・児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。 ・部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ・異学年間の縦の交流が生まれやすい。 ・児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ・集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ・切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。 ・組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。
学校運営面・財政面	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ・学校が一体となって活動しやすい。 ・施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ・学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ・一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ・教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。 ・子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域社会との連携が図りやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。

中学校の規模について

(2) 大規模化のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。 ・ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。 ・ 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい。 ・ 児童・生徒数、教員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りやすい。 ・ 様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。 ・ 学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 ・ 切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。
学校運営面・財政面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。 ・ 教員数がある程度多いため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやすい。 ・ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい。 ・ 校務分掌を組織的に行いやすい。 ・ 出張、研修等に参加しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。 ・ 教職員相互の連絡調整が図りづらい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども一人あたりにかかる経費が小さくなりやすい。 ・ PTA活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある。 ・ 保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。

新中学校候補地について

1 選出条件

中学校設置基準（平成14年3月29日文科科学省令第15号）に基づく校舎面積及び運動場面積を満たすこと。

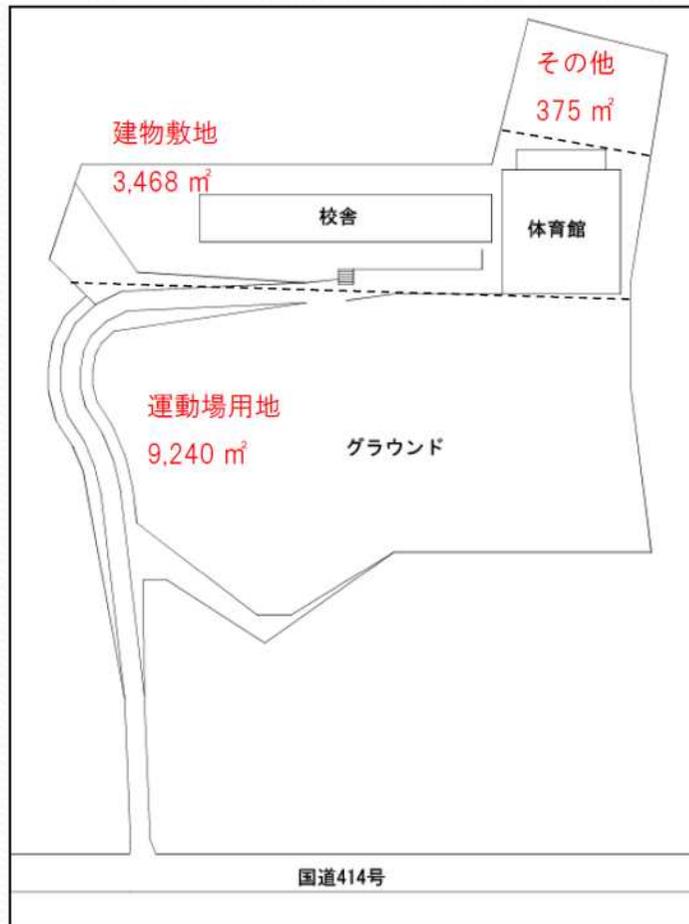
既存施設を最大限活用し、統合後に教育の質の充実を図ること。

津波浸水想定区域外であることなど、防災面での安全性を確保すること。

市内全域からの通学を考慮し、通学距離、通学時間については国の基準を参考とするとともに公共交通機関を利用すること（自家用車送迎等による候補地近隣住民の環境配慮）。

新中学校候補地について

2 市立4中学校の現況 稲梓中学校



	区分	建物敷地	運動場用地	その他用地	計
土地 m ²	市保有	3,468	9,240	375	13,083
	借地	0	0	0	0
	計	3,468	9,240	375	13,083

	区分	建設年	構造	階数	延床面積	耐震ランク
建物 m ²	校舎	1962	鉄筋コンクリート造	3	1,992	
	体育館	1988	鉄筋コンクリート造	1	935	b
倉庫、体育器具庫等の小規模な建物は含まない。						

津波浸水想定区域：区域外

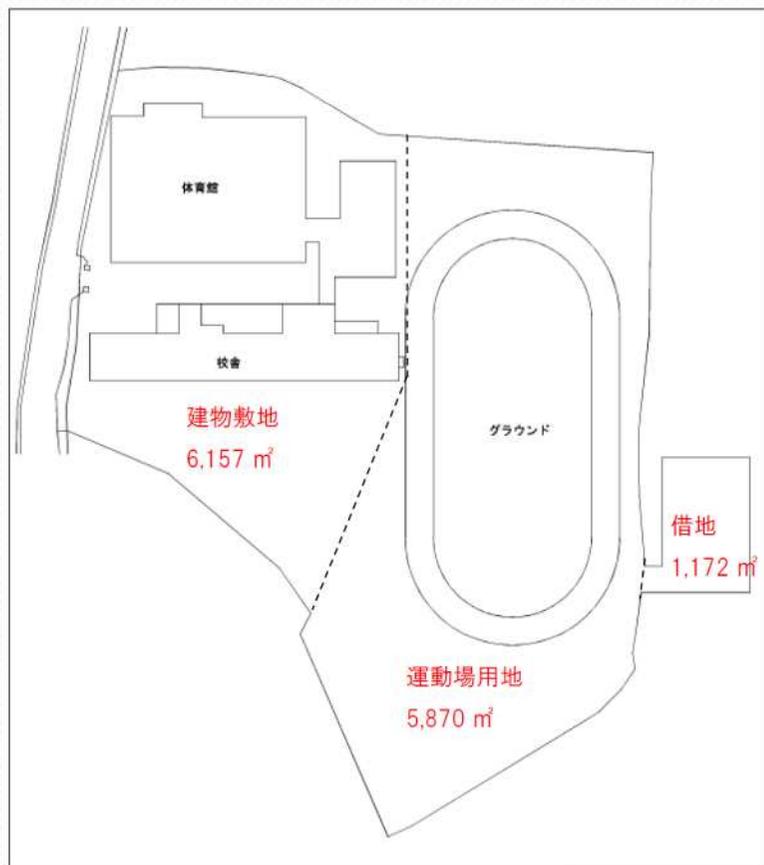
土砂災害警戒区域：一部区域

周辺環境

北側、東側及び西側は山地、南側には国道414号がある。住宅地と隣接しており。交通面では国道に面し、歩道整備されている。

新中学校候補地について

稲生沢中学校



区分		建物敷地	運動場用地	その他用地	計
土地 m ²	市保有	6,157	5,870	0	12,027
	借地	0	0	1,172	1,172
	計	6,157	5,870	1,172	13,199

区分		建設年	構造	階数	延床面積	耐震ランク
建物 m ²	校舎	1982	鉄筋コンクリート造	4	2,934	b
	体育館	1986	鉄筋コンクリート造	2	1,159	b
	技術棟	2005	鉄骨造	1	230	a
倉庫、体育器具庫等の小規模な建物は含まない。						

津波浸水想定区域：区域外

土砂災害警戒区域：一部区域

周辺環境

周辺環境としては、北側と南側は住宅地、東側に国道414号、西側に市道、住宅地と隣接している。交通面では敷地西側の市道立野お吉ヶ淵線に面し、一部歩道整備されている。

新中学校候補地について

下田東中学校



区分		建物敷地	運動場用地	その他用地	計
土地 m ²	市保有	4,358	6,238	0	10,596
	借地	4,967	6,345	0	11,312
	計	9,325	12,583	0	21,908

区分		建設年	構造	階数	延床面積	耐震ランク
建物 m ²	校舎	1967	鉄筋コンクリート造	4	2,488	
	体育館	1999	鉄筋コンクリート造	2	1,260	b
倉庫、体育器具庫等の小規模な建物は含まない。						

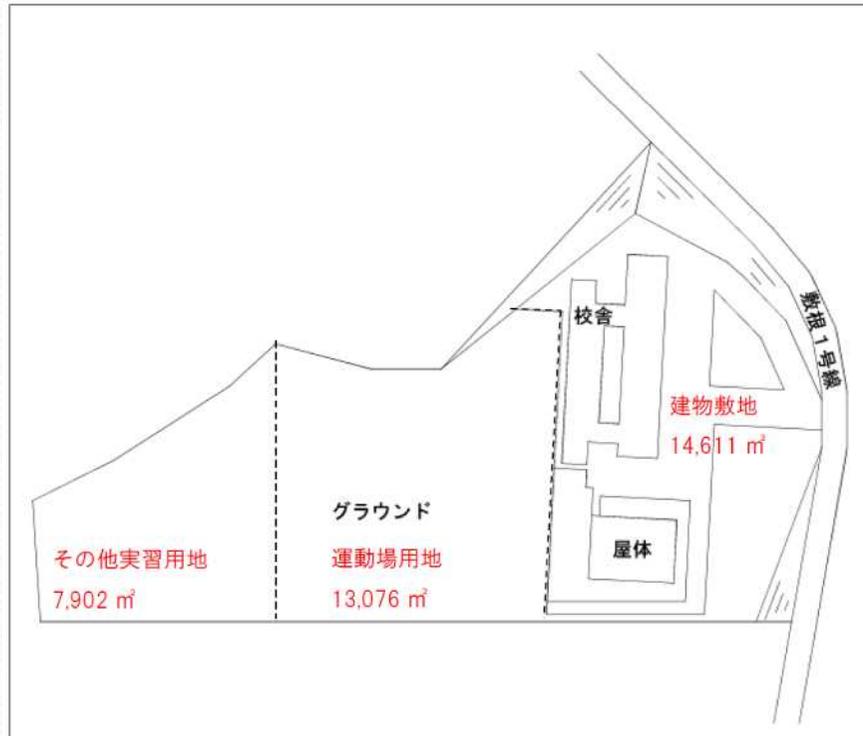
津波浸水想定区域：区域外 土砂災害警戒区域：区域外

周辺環境

周辺環境としては、北側及び東側は山地、南側は別荘地、西側に住宅地と隣接している。交通面では敷地西側の市道柿崎須崎1号線に面し歩道整備はされていない。

新中学校候補地について

下田中学校



ランク	東海地震に対する耐震性能	
Ⅰ	la	耐震性能が優れている建物。 軽微な被害にとどまり、地震後も建物を継続して使用できる。
	lb	耐震性能が良い建物。 倒壊する危険性はないが、ある程度の被害を受けることが想定される。
Ⅱ		耐震性能がやや劣る建物。 倒壊する危険性は低いが、かなりの被害を受けることも想定される。
Ⅲ		耐震性能が劣る建物。 倒壊する危険性があり、大きな被害を受けることが想定される。

(注) 建築基準法上で耐震性を有するとされる建築物はランクⅠとランクⅡ

区分		建物敷地	運動場用地	その他用地	計
土地 m ²	市保有	14,611	13,076	7,902	35,589
	借地	0	0	0	0
	計	14,611	13,076	7,902	35,589

区分		建設年	構造	階数	延床面積	耐震ランク
建物 m ²	校舎	1984	鉄筋コンクリート造	2	5,098	b
	体育館	1985	鉄筋コンクリート造	2	1,128	b
倉庫、体育器具庫等の小規模な建物は含まない。						

津波浸水想定区域：区域外

土砂災害警戒区域：一部区域

周辺環境

周辺環境としては、北側と南側を山に挟まれ、東側に敷根公園、西側にこども園及び住宅地と隣接している。交通面では敷地北側の市道敷根1号線に面し、片側1車線道路で歩道整備もされている。

新中学校候補地について

3 選出条件に基づく比較

中学校設置基準に基づく校舎面積及び運動場面積について

ア 想定生徒数

新中学校開校を平成33年度からとし、生徒数を450人と想定

イ 校舎面積

$$\begin{aligned} \text{【算定式】 } & 600 + 6 \times (\text{生徒数} - 40) \\ & 600 + 6 \times (450 - 40) = \underline{3,060\text{m}^2} \end{aligned}$$

ウ 運動場面積

$$\begin{aligned} \text{【算定式】 } & 3600 + 10 \times (\text{生徒数} - 240) \\ & 3600 + 10 \times (450 - 240) = \underline{5,700\text{m}^2} \end{aligned}$$

エ 市内4中学校の状況

	稲梓中学校	稲生沢中学校	下田東中学校	下田中学校
校舎延床面積	1,992m ²	3,164m ²	2,488m ²	5,098m ²
運動場面積	9,240m ²	5,870m ²	12,583m ²	13,076m ²

新中学校候補地について

既存施設の活用について

	稲梓中学校	稲生沢中学校	下田東中学校	下田中学校
市有地	全部	一部借地	半分借地	全部

各中学校用地のうち、すべて市有地なのは稲梓中学校及び下田中学校であり、稲生沢中学校は一部借地、下田東中学校についてはほぼ半分が借地となっております。

防災面での安全性について

	稲梓中学校	稲生沢中学校	下田東中学校	下田中学校
津波浸水想定区域	区域外	区域外	区域外	区域外
土砂災害警戒区域	一部区域	一部区域	区域外	一部区域

候補地の防災面での安全性を考慮する上で、津波浸水想定区域外及び土砂災害警戒区域外であることが重要だと考えられます。すべての中学校が津波浸水想定区域外ですが、土砂災害警戒区域については、稲梓中学校、稲生沢中学校及び下田中学校の一部が警戒区域に含まれております。

新中学校候補地について

通学について

ア 通学距離について

義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令

(昭和33年6月27日政令第189号)

(適正な学校規模の条件)

第4条 法第3条第1項第4号の適正な規模の条件は、次に掲げるものとする。

(1) 【省略】

(2) 通学距離が、小学校にあってはおおむね4キロメートル以内、中学校及び義務教育学校にあってはおおむね6キロメートル以内であること。

イ 通学時間について

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引(平成27年1月27日文部科学省)において、通学時間は「おおむね1時間以内」を一応の目安とした上で、各市町村において、地域の実情や児童生徒の実態に応じて1時間以上や1時間以内に設定することの適否を含めた判断を行うのが適当であると示しています。

新中学校候補地について

ウ 市立4中学校の比較

国の基準を参考に市立4中学校で以下の条件のもと、比較しました。

【市立4中学校比較条件】

- 1 通学は公共交通機関（バス路線）を利用することを想定（自家用車送迎等による候補地近隣住民の環境配慮）。また、市内全域からの通学を考慮し、中心部から最も遠い停留所を以下のとおり選出（下田地区は下田駅を選出）。
稲梓地区：加増野、北の沢
白浜地区：板戸一色
朝日地区：田牛、銭瓶峠、堀切
稲生沢地区：大沢口
浜崎地区：須崎海岸、爪木崎
下田地区：下田駅
- 2 選出した停留所と市立4中学校付近停留所の距離及びバス乗車時間を調査（中学校付近停留所と中学校間の徒歩時間を含む）。但し、下田駅などでの乗換時間は考慮しない。
- 3 自宅から停留所までの距離及び時間を考慮しない（市立4中学校の比較は、上記1及び2で検討できるため）。
- 4 バス運行ダイヤについては、既存ダイヤを考慮しない（統合となった際、ダイヤ設定については交通事業者と要交渉）。

新中学校候補地について

(ア) 稲梓中学校 (停留所：下箕作、稲梓中学校〔賀茂逆川線〕)

地区	停留所	距離	時間 (内徒歩時間)
稲梓地区	加増野	5.9 km	13分 (5分)
	北の沢〔稲梓中学校〕	3.8 km	11分 (2分)
稲生沢地区	大沢口	6.0 km	22分 (5分)
白浜地区	板戸一色	14.3 km	37分 (5分)
浜崎地区	須崎海岸	11.1 km	35分 (5分)
	爪木崎	12.6 km	45分 (5分)
朝日地区	田牛	13.5 km	40分 (5分)
	銭瓶峠	12.4 km	35分 (5分)
	堀切	12.5 km	37分 (5分)
下田地区	下田駅	6.8 km	22分 (5分)
※参考 平均		9.89 km	29.7分
距離区分		時間区分	
5 km未満	1か所	10分未満	0か所
5 km以上 10 km未満	3か所	10分以上 20分未満	2か所
10 km以上	6か所	20分以上 30分未満	2か所
—	—	30分以上 40分未満	4か所
—	—	40分以上	2か所

稲梓中学校を新中学校候補地とした場合、距離及び時間で最も遠かったのは、板戸一色停留所14.3km、爪木崎停留所45分、平均は9.89km、29.7分でした。区分ごとに整理すると距離では10km以上が6か所、時間では30分以上40分未満が4か所で最も多い結果となりました。

新中学校候補地について

(イ) 稻生沢中学校 (停留所：河内温泉)

地区	停留所	距離	時間 (内徒歩時間なし)
稲梓地区	加増野	10.2 km	18 分
	北の沢	8.4 km	17 分
稲生沢地区	大沢口	1.8 km	6 分
白浜地区	板戸一色	10.4 km	23 分
浜崎地区	須崎海岸	7.1 km	21 分
	爪木崎	8.6 km	31 分
朝日地区	田牛	9.5 km	26 分
	銭瓶峠	8.3 km	21 分
	堀切	8.5 km	23 分
下田地区	下田駅	2.8 km	8 分
※参考 平均		7.56 km	19.4 分
距離区分		時間区分	
5 km未満	2 か所	10 分未満	2 か所
5 km以上 10 km未満	6 か所	10 分以上 20 分未満	2 か所
10 km以上	2 か所	20 分以上 30 分未満	5 か所
—	—	30 分以上 40 分未満	1 か所
—	—	40 分以上	0 か所

稲生沢中学校を新中学校候補地とした場合、距離及び時間で最も遠かったのは、板戸一色停留所10.4km、爪木崎停留所31分、平均は7.56km、19.4分でした。区分ごとに整理すると距離では5 km以上10km未満が6 か所、時間では20分以上30分未満が5 か所で最も多い結果となりました。

新中学校候補地について

(ウ) 下田東中学校 (停留所：上の山、柿崎神社前〔須崎海岸線・爪木崎線〕)

地区	停留所	距離	時間 (内徒歩時間)
稲梓地区	加増野	14.7 km	36 分 (5分)
	北の沢	12.9 km	37 分 (5分)
稲生沢地区	大沢口	5.9 km	23 分 (5分)
白浜地区	板戸一色	5.7 km	14 分 (5分)
浜崎地区	須崎海岸〔柿崎神社前〕	2.6 km	11 分 (5分)
	爪木崎〔柿崎神社前〕	4.1 km	21 分 (5分)
朝日地区	田牛	8.6 km	29 分 (5分)
	銭瓶峠	7.3 km	24 分 (5分)
	堀切	7.5 km	26 分 (5分)
下田地区	下田駅	2.1 km	11 分 (5分)
※参考 平均		7.14 km	23.2 分
距離区分		時間区分	
5 km未満	3 か所	10 分未満	0 か所
5 km以上 10 km未満	5 か所	10 分以上 20 分未満	3 か所
10 km以上	2 か所	20 分以上 30 分未満	5 か所
—	—	30 分以上 40 分未満	2 か所
—	—	40 分以上	0 か所

下田東中学校を新中学校候補地とした場合、距離及び時間で最も遠かったのは、加増野停留所14.7km、北の沢停留所37分、平均は7.14km、23.2分でした。区分ごとに整理すると距離では5 km以上10km未満が5 か所、時間では20分以上30分未満が5 か所で最も多い結果となりました。

新中学校候補地について

(工) 下田中学校 (停留所：下田中学校)

地区	停留所	距離	時間 (内徒歩時間なし)
稲梓地区	加増野	14.8 km	30 分
	北の沢	13.0 km	31 分
稲生沢地区	大沢口	6.0 km	17 分
白浜地区	板戸一色	9.5 km	20 分
浜崎地区	須崎海岸	6.3 km	18 分
	爪木崎	7.7 km	28 分
朝日地区	田牛	7.6 km	23 分
	銭瓶峠	6.4 km	18 分
	堀切	3.9 km	10 分
下田地区	下田駅	1.8 km	5 分
※参考 平均		7.7 km	20.0 分
距離区分		時間区分	
5 km未満	2 か所	10 分未満	1 か所
5 km以上 10 km未満	6 か所	10 分以上 20 分未満	4 か所
10 km以上	2 か所	20 分以上 30 分未満	3 か所
—	—	30 分以上 40 分未満	2 か所
—	—	40 分以上	0 か所

下田中学校を新中学校候補地とした場合、距離及び時間で最も遠かったのは、加増野停留所14.8km、北の沢停留所31分、平均は7.7km、20.0分でした。区分ごとに整理すると距離では5 km以上10km未満が6 か所、時間では10分以上20分未満が4 か所で最も多い結果となりました。

新中学校候補地について

4 新中学校候補地について

これまでの選出条件を比較し、以下表のとおり取りまとめた結果、「稲生沢中学校」及び「下田中学校」を新中学校候補地とするのが望ましいという結論に至りました。

	稲梓中学校	稲生沢中学校	下田東中学校	下田中学校
中学校設置基準				
市有地				
防災面での安全性				
通学について				
合 計	9	10	9	10

：3点、　：2点、　：1点にて加点し、合計点を算出（12点満点）

中学校再編に関する方向性について

下田市総合教育会議では、中学校の規模に関わる諸課題や学校再編アンケートの検証、下田市立4中学校の生徒数推移及び現状などを踏まえ、協議、検討した結果、以下の結論に至りました。

1 中学校の統合手法について

方向性 下田市立4中学校を一度に統合する1校化の手法が望ましい。
理由 稲梓中学校と稲生沢中学校を統合したとしても再び単学級の発生が近い将来見込まれるため。
国が示す標準規模校（学級数が12学級から18学級）の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身につけさせていくため。

2 新中学校候補地について

中学校設置基準、既存4中学校跡地の活用、防災面での安全性及び国の基準を参考に市内全域からの通学を考慮した結果、現在の稲生沢中学校または下田中学校とするのが望ましい。

今後の中学校再編に関する検討について

今後の中学校再編に関する検討は、報告書に以下のとおり記載されており、この記載内容に基づき、更に協議及び検討を進めます。

今後の中学校再編の検討に当たっては、生徒の教育環境を守り、改善することを第一目的とし、次の点に留意し進める必要があります。

- 1 下田市総合教育会議では、4校を一度に統合する1校化の手法が望ましいという結論に達しましたが、今後、更なる中学校再編に関する課題の検討等を行うため、保護者、地域住民、学校関係者から成る会議を設置し、具体的課題解決への方策を検討すること。
- 2 アンケート分析の結果、中学校再編に関する情報について、保護者等に対し十分に伝達されていない状況が伺えるため、方針を明確に示したうえで、保護者、地域住民等に対する説明会を開催すること。
- 3 今後、人口減少がより進行し、これまで学校を中心に培ってきた教育環境や地域の文化伝統の維持継承が困難となることが予測されるため、中学校と地域とのつながりをより強固とする方策を検討すること。
- 4 これまでの下田市総合教育会議の協議内容や検討資料等を別冊として取りまとめたので、それらを基に再編について検討すること。

今年度のスケジュールについて

関係事項	H28.9	H28.10	H28.11	H28.12	H29.1	H29.2	H29.3
保護者・学校	広報・概要版 配布周知	説明会開催 (4中学校区)					
地域	広報・概要版 配布周知	説明会開催 (6地区)					
中学校再編 検討会議		第1回会議 設置・協議		第2回会議 協議		第3回会議 方針等提示	
庁内プロジェクト							
教育委員会	経過報告	経過報告	事前協議	経過報告	経過報告	経過報告	事前協議
総合教育会議			経過報告				方針等確認
政策会議							方針等確認

今年度末までに取りまとめられる方針等は、平成29年度に入り下田市学校等再編整備審議会を設置し、諮問及び答申を経た後、市として最終決定を行う予定です。

【参考】通学補助に係る検討について

1 現行の通学費補助について

(1) 下田市遠距離通学費補助金の概要

小学生は4 km以上、中学生6 km以上の路線バスもしくは自転車利用通学をしている児童等の保護者が保護対象。小学生は全額、中学生は1/2補助、中学生の自転車通学は月1,000円補助。

例外：稲梓小 - 須原地区、朝日小 - 田牛地区、稲梓中 - 須原地区、下田東中 - 白浜地区
下田中 - 朝日地区は距離制限なし。

(2) 平成27年度下田市遠距離通学費補助金の補助実績

学校名	対象人数	補助支給額
稲梓小学校	33人	987,570円
朝日小学校	6人	168,560円
小学校計	39人	1,156,130円
稲梓中学校	15人	194,470円
下田東中学校	50人	2,091,875円
下田中学校	66人	2,121,515円
中学校計	131人	4,407,860円
合計	170人	5,563,990円

【参考】通学補助に係る検討について

2 中学校統合に係る通学費補助想定について

(1) 中学校統合に係る通学費補助要件の仮設定について

下田市立4中学校を1校化にする想定に伴い、統合後の校舎位置については稲生沢中学校及び下田中学校を候補地としました。併せて、公共交通機関の活用（自家用車送迎等による候補地近隣住民の環境配慮）及び他市町の制度を参考に補助要件などを仮に設定しました。

補助対象者	制度概要
小中学校の統合等に伴い、 <u>市が指定する就学校又は通学場所に変更が生じた地域の児童・生徒</u> 統合前の旧学区内の児童・生徒に対しては既存補助要綱を適用。	補助率は全額補助（通学定期券の交付） 通学費負担を軽減し、義務教育の円滑な遂行を図る。

(2) 通学費補助内容の決定について

参考資料として通学費補助に係る想定を記載しましたが、正式な通学費補助内容については、今後、関係各所との協議を経た上で決定される予定です。

【参考】通学補助に係る検討について

- (3) 通学費補助要件の仮設定に基づく各地区からの補助金額について
(1) で掲げた通学費補助要件の仮設定に基づく各地区からの補助金額について、以下の条件にて算出しました。

【補助金額算出条件】

- 1 行政区別人口データは、平成28年4月1日時点の住民基本台帳の行政区別・年齢別人口調べを利用。
- 2 地区別の1年生から3年生の生徒数については、平成33年度からの中学校統合を想定し、平成28年4月1日現在でその学年に該当する7歳から9歳のそれぞれの人数を記載。
- 3 地区別に既存の稲生沢中学校及び下田中学校までの通学定期代について算出。併せて、バス利用のみの場合、バス及び鉄道利用の場合それぞれの定期代を算出。
- 4 補助期間については、休暇中の部活動等を考慮し、1年間(365日)とする。
- 5 バス及び鉄道定期代については、(株)南伊豆東海バス及び伊豆急行(株)に確認し、平成28年度定期券金額から算出。
バス通学定期券：4か月定期が最長・鉄道通学定期券：6か月定期が最長
- 6 停留所等については、行政区ごとで1か所を設定。また、停留所利用人数についても行政区ごとの人数が全て利用すると仮定。
- 7 バス及び鉄道ダイヤについては、既存ダイヤを考慮しない。(統合となった場合、ダイヤ設定については交通事業者と要交渉)。

【参考】通学補助に係る検討について

◎稲生沢中学校想定（バス利用：各停留所⇒河内温泉バス停）

【稲梓地区】

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	定期代 補助額
須原	北の沢	2	0	1	3	68,400	205,200	615,600
須原2	目金	6	0	1	7	57,460	172,380	1,206,660
宇土金	宇土金口	0	2	2	4	57,460	172,380	689,520
椎原	上箕作	3	3	3	9	45,140	135,420	1,218,780
北湯ヶ野	上箕作	0	2	0	2	45,140	135,420	270,840
横川	横川	2	0	2	4	62,930	188,790	755,160
加増野	加増野	1	0	1	2	82,080	246,240	492,480
相玉	相玉	0	3	1	4	47,880	143,640	574,560
箕作	下箕作	0	7	2	9	42,410	127,230	1,145,070
落合	落合	0	0	0	0	34,200	102,600	0
稲梓地区計		14	17	13	44			6,968,670

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。

◎下田中学校想定（バス利用：各停留所⇒下田駅⇒下田中学校バス停）

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	定期代 補助額
須原	北の沢	2	0	1	3	86,180	258,540	775,620
須原2	目金	6	0	1	7	76,610	229,830	1,608,810
宇土金	宇土金口	0	2	2	4	76,610	229,830	919,320
椎原	上箕作	3	3	3	9	62,930	188,790	1,699,110
北湯ヶ野	上箕作	0	2	0	2	62,930	188,790	377,580
横川	横川	2	0	2	4	80,710	242,130	968,520
加増野	加増野	1	0	1	2	97,130	291,390	582,780
相玉	相玉	0	3	1	4	64,300	192,900	771,600
箕作	下箕作	0	7	2	9	58,820	176,460	1,588,140
落合	落合	0	0	0	0	50,620	151,860	0
稲梓地区計		14	17	13	44			9,291,480

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。

【参考】通学補助に係る検討について

◎下田中学校想定（バス利用：各停留所⇒下田駅⇒下田中学校バス停）

【稲生沢地区】

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	定期代 補助額
東本郷2	東本郷二丁目	0	0	0	0	32,830	98,490	0
西本郷2	西本郷二丁目	5	0	1	6	31,460	94,380	566,280
西本郷3	西本郷二丁目	1	1	0	2	31,460	94,380	188,760
高馬	高馬	2	2	1	5	35,570	106,710	533,550
河内	河内温泉	7	6	6	19	45,140	135,420	2,572,980
蓮台寺	蓮台寺	6	4	1	11	45,140	135,420	1,489,620
上大沢	大沢口	1	0	1	2	51,980	155,940	311,880
下大沢	大沢口	2	0	1	3	51,980	155,940	467,820
立野	中の瀬	4	1	4	9	41,040	123,120	1,108,080
中	西中村	11	13	9	33	35,570	106,710	3,521,430
稲生沢地区計		39	27	24	90			10,760,400

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。

◎下田中学校想定（鉄道・バス利用：各停留所⇒下田駅⇒下田中学校バス停）

行政区	停留所等 (想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	鉄道 定期 (6か月)	鉄道 定期 (1年)	定期代 補助額
東本郷2	東本郷二丁目	0	0	0	0	32,830	98,490			0
西本郷2	西本郷二丁目	5	0	1	6	31,460	94,380			566,280
西本郷3	西本郷二丁目	1	1	0	2	31,460	94,380			188,760
高馬	高馬	2	2	1	5	35,570	106,710			533,550
河内	蓮台寺駅	7	6	6	19	23,260	69,780			2,027,680
蓮台寺	蓮台寺駅	6	4	1	11	23,260	69,780			1,173,920
上大沢	蓮台寺駅	1	0	1	2	23,260	69,780	18,470	36,940	213,440
下大沢	蓮台寺駅	2	0	1	3	23,260	69,780			320,160
立野	蓮台寺駅	4	1	4	9	23,260	69,780			960,480
中	西中村	11	13	9	33	35,570	106,710			3,521,430
稲生沢地区計		39	27	24	90					9,505,700

※バス定期(1年)はバス定期(4か月)から算出、鉄道定期(1年)は鉄道通学定期(6か月)金額から算出。補助額は、それぞれの定期(1年)金額に生徒計をかけ算出。

【参考】通学補助に係る検討について

【白浜地区】

◎稲生沢中学校想定（バス利用：各停留所⇒下田駅⇒河内温泉バス停）

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	定期代 補助額
原田	白浜神社	8	9	7	24	68,400	205,200	4,924,800
長田	長田	4	7	3	14	73,870	221,610	3,102,540
板戸	板戸一色	1	2	4	7	84,820	254,460	1,781,220
白浜地区計		13	18	14	45			9,808,560

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。

◎稲生沢中学校想定（鉄道・バス利用：各停留所⇒下田駅⇒蓮台寺駅）

行政区	停留所 (想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	鉄道 定期 (6か月)	鉄道 定期 (1年)	定期代 補助額
原田	白浜神社	8	9	7	24	49,250	147,750			4,432,560
長田	長田	4	7	3	14	53,350	160,050	18,470	36,940	2,757,860
板戸	板戸一色	1	2	4	7	64,300	192,900			1,608,880
白浜地区計		13	18	14	45					8,799,300

※バス定期(1年)はバス定期(4か月)から算出、鉄道定期(1年)は鉄道通学定期(6か月)金額から算出。補助額は、それぞれの定期(1年)金額に生徒計をかけ算出。

◎下田中学校想定（バス利用：各停留所⇒下田駅⇒下田中学校バス停）

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	定期代 補助額
原田	白浜神社	8	9	7	24	60,190	180,570	4,333,680
長田	長田	4	7	3	14	64,300	192,900	2,700,600
板戸	板戸一色	1	2	4	7	76,610	229,830	1,608,810
白浜地区計		13	18	14	45			8,643,090

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。

【参考】通学補助に係る検討について

◎稲生沢中学校想定（バス利用：各停留所⇒下田駅⇒河内温泉バス停）

【浜崎地区】

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	定期代 補助額
柿崎	柿崎神社前	9	4	13	26	43,780	131,340	3,414,840
須崎	須崎海岸	9	9	7	25	62,930	188,790	4,719,750
外浦	外浦口	1	3	1	5	51,980	155,940	779,700
浜崎地区計		19	16	21	56			8,914,290

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。

◎稲生沢中学校想定（鉄道・バス利用：各停留所⇒下田駅⇒蓮台寺駅）

行政区	停留所 (想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	鉄道 定期 (6か月)	鉄道 定期 (1年)	定期代 補助額
柿崎	柿崎神社前	9	4	13	26	23,260	69,780			2,774,720
須崎	須崎海岸	9	9	7	25	41,040	123,120	18,470	36,940	4,001,500
外浦	外浦口	1	3	1	5	32,830	98,490			677,150
浜崎地区計		19	16	21	56					7,453,370

※バス定期(1年)はバス定期(4か月)から算出、鉄道定期(1年)は鉄道通学定期(6か月)金額から算出。補助額は、それぞれの定期(1年)金額に生徒計をかけ算出。

◎下田中学校想定（バス利用：各停留所⇒下田駅⇒下田中学校バス停）

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	定期代 補助額
柿崎	柿崎神社前	9	4	13	26	35,570	106,710	2,774,460
須崎	須崎海岸	9	9	7	25	54,720	164,160	4,104,000
外浦	外浦口	1	3	1	5	43,780	131,340	656,700
浜崎地区計		19	16	21	56			7,535,160

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。

【参考】通学補助に係る検討について

◎稲生沢中学校想定（バス利用：各停留所⇒下田駅⇒河内温泉バス停）

【下田地区】

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	定期代 補助額
一丁目	下田駅	3	8	3	14	34,200	102,600	1,436,400
二丁目	下田駅	4	1	5	10	34,200	102,600	1,026,000
三丁目	下田駅	1	2	2	5	34,200	102,600	513,000
四丁目	下田駅	0	3	2	5	34,200	102,600	513,000
五丁目	鍋田口	0	4	1	5	43,780	131,340	656,700
六丁目	白岩山	16	15	14	45	46,510	139,530	6,278,850
武ガ浜	下田駅	0	1	1	2	34,200	102,600	205,200
敷根	下田駅	2	3	1	6	34,200	102,600	615,600
東本郷1	下田駅	1	2	3	6	34,200	102,600	615,600
西本郷1	下田駅	1	0	3	4	34,200	102,600	410,400
下田地区計		28	39	35	102			12,270,750

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。

◎稲生沢中学校想定（鉄道・バス利用：各停留所⇒下田駅⇒蓮台寺駅）

行政区	停留所等 (想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	鉄道 定期 (6か月)	鉄道 定期 (1年)	定期代 補助額
一丁目	下田駅	3	8	3	14					517,160
二丁目	下田駅	4	1	5	10					369,400
三丁目	下田駅	1	2	2	5					184,700
四丁目	下田駅	0	3	2	5					184,700
五丁目	鍋田口	0	4	1	5	23,260	69,780	18,470	36,940	533,600
六丁目	白岩山	16	15	14	45	23,260	69,780			4,802,400
武ガ浜	下田駅	0	1	1	2					73,880
敷根	下田駅	2	3	1	6					221,640
東本郷1	下田駅	1	2	3	6					221,640
西本郷1	下田駅	1	0	3	4					147,760
下田地区計		28	39	35	102					7,256,880

※バス定期(1年)はバス定期(4か月)から算出、鉄道定期(1年)は鉄道通学定期(6か月)金額から算出。補助額は、それぞれの定期(1年)金額に生徒計をかけ算出。

【参考】通学補助に係る検討について

【朝日地区】

◎稲生沢中学校想定（バス利用：各停留所⇒下田駅⇒河内温泉バス停）

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス定期 (4か月)	バス定期 (1年)	定期代 補助額
吉佐美	吉佐美	23	8	17	48	57,460	172,380	8,274,240
田牛	田牛	3	1	2	6	80,710	242,130	1,452,780
大賀茂	学校前	13	13	14	40	62,930	188,790	7,551,600
朝日地区計		39	22	33	94			17,278,620

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。

◎稲生沢中学校想定（バス利用：各停留所⇒下田駅⇒蓮台寺駅）

行政区	停留所 (想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	鉄道 定期 (6か月)	鉄道 定期 (1年)	定期代 補助額
吉佐美	吉佐美	23	8	17	48	36,940	110,820			7,092,480
田牛	田牛	3	1	2	6	60,190	180,570	18,470	36,940	1,305,060
大賀茂	学校前	13	13	14	40	39,670	119,010			6,238,000
朝日地区計		39	22	33	94					14,635,540

※バス定期(1年)はバス定期(4か月)から算出、鉄道定期(1年)は鉄道通学定期(6か月)金額から算出。補助額は、それぞれの定期(1年)金額に生徒計をかけ算出。

◎下田中学校想定（バス利用：各停留所⇒下田中学校バス停）

行政区	停留所(想定)	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	定期代 補助額
吉佐美	吉佐美	23	8	17	48	46,510	139,530	3,348,720
田牛	田牛	3	1	2	6	71,140	213,420	640,260
大賀茂	学校前	13	13	14	40	34,200	102,600	2,052,000
朝日地区計		39	22	33	94			6,040,980

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけた後、朝日地区は下田中学校旧学区で既存補助要綱適用により半額補助となるため、更に1/2をかけて算出。

【参考】通学補助に係る検討について

【稲生沢中学校想定（バス利用のみ）】

【全地区】

	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	定期代 補助額
全地区合計	113	112	116	341			55,240,890

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。

【稲生沢中学校想定（バス及び鉄道利用）】

	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	鉄道 定期 (6か月)	鉄道 定期 (1年)	定期代 補助額
全地区合計	113	112	116	341					45,113,760

※バス定期(1年)はバス定期(4か月)から算出、鉄道定期(1年)は鉄道通学定期(6か月)金額から算出。補助額は、それぞれの定期(1年)金額に生徒計をかけ算出。

【下田中学校想定（バス利用のみ）】

	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	定期代 補助額
全地区合計	124	100	105	329			42,271,110

※バス定期(1年)は、バス定期(4か月)金額から算出。補助額は、バス定期(1年)金額に生徒計をかけて算出。朝日地区は下田中学校旧学区で既存補助要綱適用により半額補助となるため、更に1/2をかけて算出。

【下田中学校想定（バス及び鉄道利用）】

	1年生	2年生	3年生	生徒計	バス 定期 (4か月)	バス 定期 (1年)	鉄道 定期 (6か月)	鉄道 定期 (1年)	定期代 補助額
全地区合計	124	100	105	329					41,016,410

※バス定期(1年)はバス定期(4か月)から算出、鉄道定期(1年)は鉄道通学定期(6か月)金額から算出。補助額は、それぞれの定期(1年)金額に生徒計をかけ算出。朝日地区は下田中学校旧学区で既存補助要綱適用により半額補助となるため、更に1/2をかけて算出。